

わたしも 筆

一生忘れることのでき
ない素晴らしい思い出



わたしは、ロータリークラブの
青少年交換留学生として、西オ
ーストラリア州にあるナロジンとい

う小さな町に、約一年間留学して
きました。

わたしが留学したいと思った理
由は、外国に実際に住んで肌で文
化を感じてみたいと思ったこと
と、教科書ではなく本場の英語を
習いたいと思ったからです。

初めのころは、言葉が全然理解
できず、まったくといっていいほ
ど、会話になっていませんでした。
しかしオーストラリアの人は、と
ても優しく、フレンドリー（気さ
く）なので、わたしが理解できな
いときには、ジェスチャーなどを
つけて、わかるまで何度も教えて
くれました。

学校でもたくさんの方が声を掛
けてくれたり、ランチに誘ってく
れたりしたので、友達づくりには
苦労しませんでした。でもやっぱり



外崎 梢
(鶴田高等学校3年)

り家族や友達など、日本が恋しく
なった時期もありました。そんな
とき初めて日本の素晴らしさを知
りました。そしてたくさんの人た
ちに支えられていて、わたしは独
りじゃないんだと気がきました。

この一年間で一番楽しかったの
は、サファリという三週間のキャ
ンプです。ほかの留学生約四十人
と一緒にバスで砂漠のような所
に行き、グループで当番を決めて食
事を作ったり、夜は外で寝袋に入
って寝ました。昼はビーチに行っ
て泳いだり、ハイキングをしたり、
カヌーに乗ったりしました。すべ
てが初めての経験でした。そして
何より、世界中に友達ができたと
嬉しく、なかなかできない素
晴らしい体験をすることができま
した。

昨年の8月から今年の7月までの約一
年間、オーストラリアのナロジンとい
う町へ留学をした外崎さん。アボリジニ
の言葉で「水の場所」を意味するこの
南西海岸の町での、楽しかった留学生活
についてお話しをしてもらいます。

サファリのほかに、学期の最
後に学校で行われるソーシャルと
いうダンスパーティーや、卒業生
で行うスクールボールという大規
模なダンスパーティーなどがあり
ました。ソーシャルは、全校生徒
誰でも参加することができ、体育
館で深夜までダンスをするとい
う小規模なダンスパーティーでし
た。スクールボールはソーシャル
とは違い、大きなホールを貸し切
り卒業生だけがきれいなドレスや
アクセサリーなどを身にまといパ
ーティーを連れて行き、ダンスを
したり、写真撮影をしたり、食事
をしたりする、少し早い卒業記念
パーティーのような感じでした。

オーストラリアの人たちは、本
当にパーティーが好きで、何かに
つけてパーティーをします。

わたしが日本に帰る一週間前
もレストランを貸し切って大きな
パーティーをしてくれました。そ
して、日本に帰る日は、夜遅い時
間だったにもかかわらず、空港ま
で見送りに来てくれました。たっ
たの一年だったけど、こんなに大
切に思ってくれる友達ができたと、
ここは梢の家だからいつでも
帰っておいでと言ってくれる家族
ができたこと、辛かったこと楽し
かったことすべて、一生忘れるこ
とのできない素晴らしい思い出に
なりました。

最後に、留学の機会をくださった
ロータリークラブ、鶴田高校、
そして支えてくれた母親、友達、
すべての方々にとっても感謝してい
ます。本当にありがとうございました。